

## 頸動脈超音波検査

～メタボリックシンドロームや  
生活習慣病には動脈硬化チェックを～

小金井中央病院  
内科医 太田 英孝

### 超音波検査とは？

超音波とは「人間には聞こえない高い音」の事をいい、物にぶつかると反射する性質を持っています。

超音波検査は、この超音波を体の外から発射し、返ってきた反射波を受信して画像にし、その状況を見ることです。

難しく思われるかも知れませんが、漁師さんなどが使用する魚群探知機と同じ原理です。

今回ご紹介する頸動脈のほかに、腹部超音波検査、心臓超音波検査などがあります。



### 頸動脈の超音波検査で何が分かるの？

この頸動脈超音波検査では、頸動脈の血管の壁の石灰化（動脈硬化）や、血管の内腔の形状を観察することができます。

後で述べますが、頸部の動脈硬化はさまざまな病気の原因の一つとされています。頸動脈の動脈硬化は、この超音波検査で発見しやすい病変なのです。

### 頸動脈超音波検査を受けることのメリットとは？

メリットの1つ目は、頸動脈の動脈硬化があるかどうかが分かることです。頸動脈の動脈硬化は、脳梗塞や一過性脳虚血発作などの原因の一つとされています。また、頸部血管の動脈硬化は脳動脈や冠動脈（心臓に栄養を与えている動脈）など、体にとって大事な動脈の石灰化とも関連があります。このように、頸動脈の動脈硬化の有無を把握することで、上に挙げた脳梗塞のほか、心筋梗塞や狭心症などの予防や早期発見につながります。

メリットの2つ目は、「体に負担が少ない」ことです。

超音波検査はプローブ（探触子）と呼ばれる器具を体に当てるだけです。痛みはなく、検査前の食事制限もありません。

人体に副作用がなく、胎児の診断にも使われています。

メリットの3つ目は、「自分の動脈硬化の状態を知ること、自分の健康保持の意識を高めるきっかけになります。」

検査を受けたことで、動脈硬化の予防や進行防止のために、血圧のチェック、血糖のコントロール、肥満の改善、などという健康への意識を高める一助になります。



### 頸動脈超音波検査を勧める対象の患者さんは？

- ・ 糖尿病、高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなどの動脈硬化を発症しやすい患者さん
- ・ 脳梗塞、心筋梗塞、狭心症などの動脈硬化の合併が強く疑われる患者さん
- ・ 頸動脈から雑音が聞こえる患者さん
- ・ 脳動脈瘤、大動脈炎症候群などすでに動脈に異常が認められる患者さん

### 検査後の対応は？

異常が無ければ、これからも生活習慣病の予防や持病のコントロールを怠らずに、過ごしましょう。

軽度の動脈硬化ならば、直接外科的な治療はありません。間接的に動脈硬化の原因となるような状態を改善するように努め、その後は適宜、経過観察をしていくとよいでしょう。

ごく稀に、大きな血栓などが頸動脈内にある場合は、外科の先生と相談し、脳梗塞の予防のための外科的な処置、または、血栓症予防のための内服薬投与を開始するかどうかを検討し、可能な限り症状が悪化することの無いような手段を検討していきます。



当院でも上記の頸部超音波検査を受けることができます。

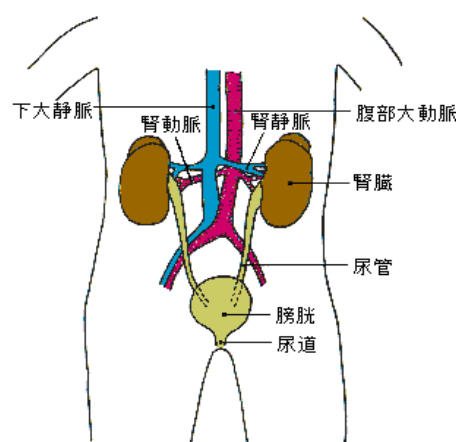
今回、記事を読んで気になった方は主治医に相談してみてください。

# 腎臓はどんなもの？

小金井中央病院  
透析室 主任 佐藤 成人

## 腎臓の位置と大きさは？

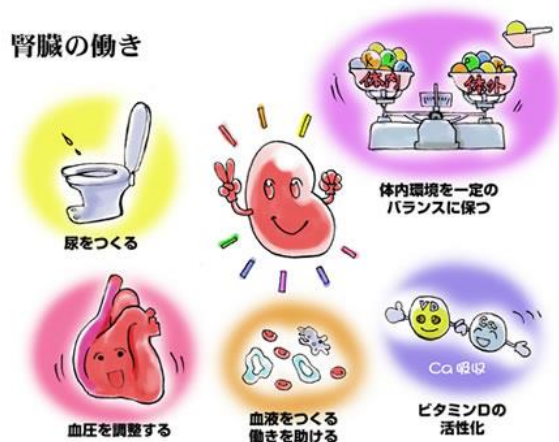
腎臓は、第12胸椎から第3腰椎の背中側に左右一対あり「そらまめ」の形をした臓器です。大人の腎臓は、長さ10～12cm、幅4～6cm、厚み4～5cmで、重さは120～150gで、よく「握りこぶし大の大きさ」と表現されています。おおよそ腸の後ろで左右に向き合うように存在し、右側は肝臓の下に当たるので左側よりやや下がっています。また、腎臓の上部には、副腎とよばれる重さ5g前後と小さいながら、ホルモンを生産・分泌する大切な臓器がついています。



## 腎臓のはたらきは？

皆さんは、「腎臓って何をしているの？」と聞かれると、まず「尿を作るところ」と答えるでしょう。尿は腎臓が血液の余分な成分を濾過して作られ、それが体の外に排泄される事により次のはたらきをしています。一つ目は、体の中の余分な水分の除去、二つ目は、老廃物(体が使ったエネルギーの燃えカス)の除去、三つ目に、体内の電解質(ナトリウム・カリウム・カルシウムなど)を適正な濃度に保つ、四つ目は、酸・アルカリの調整(血液を弱アルカリ性に保つ)です。腎臓が尿を作り出すことで体内の環境を正常に保つことが出来るのです。

### 腎臓の働き



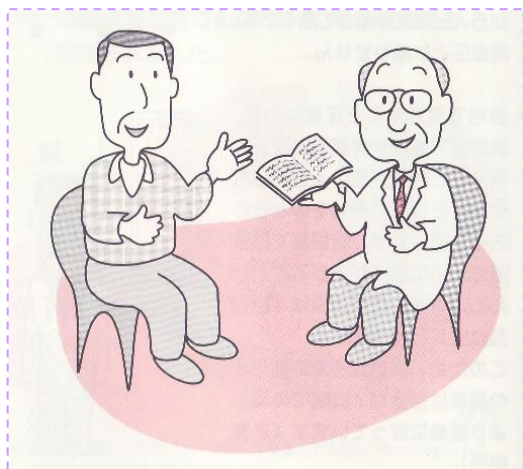
また、腎臓は血圧を適切に調節するホルモン、血液を作るホルモンを分泌すると共に、骨を作るホルモンを活性化するなど人が生きてゆくのに重要な仕事もしています。

## 腎臓のはたらきが弱くなったら？

腎臓の機能が低下すると、本来尿として体の外に出さなくはいけない水分や毒素などが徐々に体内に貯留し、むくみ・高血圧などが出現します。更に腎臓の機能低下が進行すると、食欲不振・意識障害・呼吸困難などの尿毒症の症状が出現し人工透析などの治療が必要となります。慢性的にここまで腎臓が悪くなると腎機能はもとに戻することは難しくなり、人工透析を継続しなくてはならず、平成17年は3万7千人の患者様が新たに人工透析を開始されています。

近年、人工透析の患者様の増加を減らすことを目的として、**慢性腎臓病**という概念が注目されています。慢性腎臓病は、腎臓の働きが弱くなる初期の状態です。自覚症状がないことが多く、日本国内に400万人～600万人いるといわれています。放置すれば腎不全へと進行するだけでなく、心筋梗塞など血管の病気になりやすい事もわかってきました。

しかし、慢性腎臓病に対し早期から治療を始めることで腎障害の進行を止める事や遅らせる事が可能です。会社の検診や、各市町村の検診などの血液検査・尿検査など、また家庭での血圧の測定などで自分の体を知る機会も近年増えていきます。もし腎臓を含め何らかの異常がわかったら自覚症状が無いからと放置することなく、近医または専門医を受診し病気の早期発見早期治療をするようにしましょう。



小金井中央病院ホームページ  
<http://www.koganei-chuo-hp.com>